



甲状腺の病気

糖尿病・内分泌・代謝内科
松下 隆哉

「甲状腺」は、病気をお持ちでない方でも聞いたことがあるかも知れません。頸部の中程にあり、のどぼとけの下、皮膚の直下にある臓器です。病気でおおきくなると、その蝶のような形が見える方もいます。

甲状腺にはがんが生じることもあり、超音波検査でわかります。もともと小さな臓器ですので、腫瘍が悪性か良性かわかりにくいことも多く、その場合は、繰り返し超音波検査を行いフォローアップすることが大切です。

甲状腺には、甲状腺ホルモンという生命や生活に重要な生理活性物質がでできます。甲状腺ホルモンが多く出る状態を甲状腺中毒症といいます。その最も多い原因はバセドウ病です。通常は、頻脈や動悸、発汗、体重減少、手の震え、微熱などが生じますが、高齢の方が症状がほとんどないこともあります。また、甲状腺ホルモンが少なくなると状態を甲状腺機能低下症といいます。その最も多い原因は橋本病(慢性甲状腺炎)です。通常は、むくみや皮膚の乾燥、便秘、声のかすれや筋力の低下などを生じます。しかし、甲状腺中毒症でも甲状腺機能低下症でも、甲状腺が腫れたり、疲れやすい、脱毛が生じることがあります。甲状腺の症状は、特異的な症状がないために、甲状腺ホルモンを測定して始めて病気がわかることも少なくありません。

また、バセドウ病や橋本病は、自己免疫疾患といって、患者さんご自身の免疫が甲状腺に作用することが原因ですので、甲状腺の自己抗体の検査を行います。同時に腫瘍による病気ではないことを確認するためにも超音波検査をおこないます。

かかりつけの主治医の先生から甲状腺の異常が疑われれば、当院では 1 日で甲状腺ホルモン、自己抗体、超音波検査が行えます。さらに複雑な病態の方は、アイソトープを用いた核医学検査も可能であり、詳細な診断が可能です。

新型コロナウイルス感染予防対策実施中！



マスク着用にご協力ください

